

長期の皮膚症状と検査値変動を経て日常生活が安定した成人アトピーの経過 (45 歳 男性)

症例 ID：001-40-TH2 | 記録日：2017 年 6 月 29 日

1. 診断・治療前経過

高校生頃にアトピーを発症し、皮膚科で外用薬治療を受けました。大学期に外用薬への不安から使用を減らしました。就職後、秋に背部などの皮膚が急に剥離し、松本医院で長期治療を開始しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	高校・大学期にステロイド外用薬を使用しました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	高校生頃から大学期まで断続的に使用しました。
中止時期	大学期に徐々に使用を中止しました。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
高校～大学期	発症・外用	皮膚症状に対しステロイド外用を行いました。
就職後	急性悪化	背部などの皮膚が急に剥離し、強い状態となりました。
治療開始	長期治療	煎じ薬、外用処置、必要時の漢方入浴を開始しました。
治療 4 年半	検査値ピーク 1	IgE が約 5 万となり、疲労感と落屑が強い時期でした。
治療 8 年目	検査値ピーク 2	IgE が 56000 まで上昇し、浸出液や包帯処置を要する時期がありました。
治療 10 年以降	安定傾向	IgE は 2 万前後で推移し、強い皮膚症状が減りました。
治療 15 年以上	経過後	日常生活を送りながら長期的に安定した状態となりました。

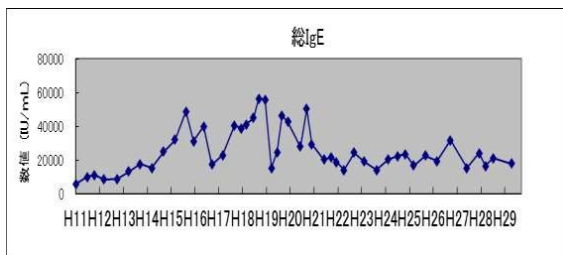
4. ピーク時期

ピークは治療 4 年半頃と 8 年目頃、IgE が 5 万台となり、皮膚剥離、浸出液、疲労感が強かった時期です。

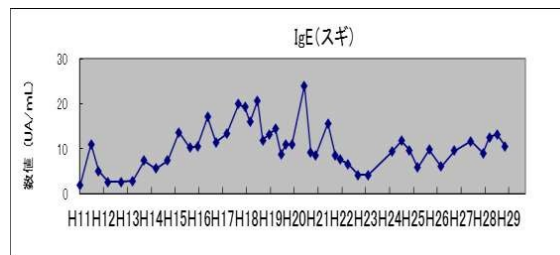
5. 困りごと

- ・長期間にわたり落屑の掃除や傷の処置が必要でした。
- ・体調不良時も包帯などを使用して仕事を継続しました。

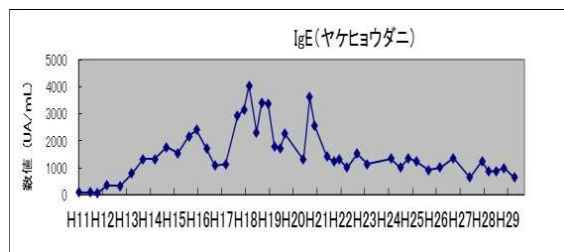
6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。



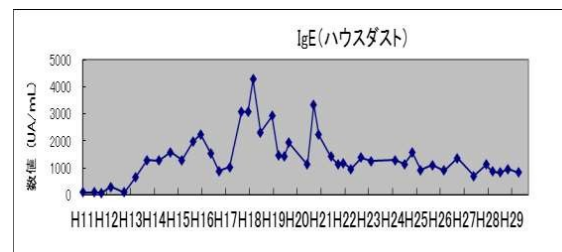
経過中の検査値の推移。



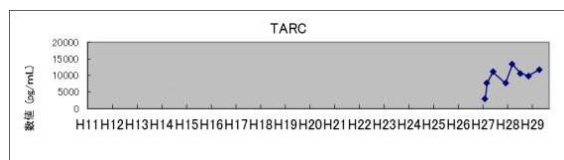
経過中の検査値の推移。



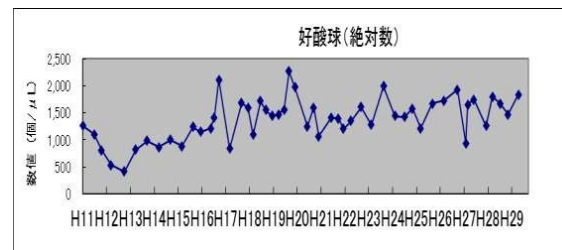
経過中の検査値の推移。



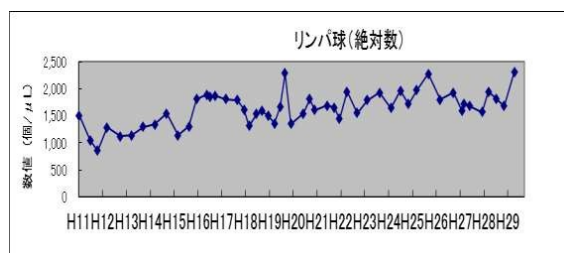
経過中の検査値の推移。



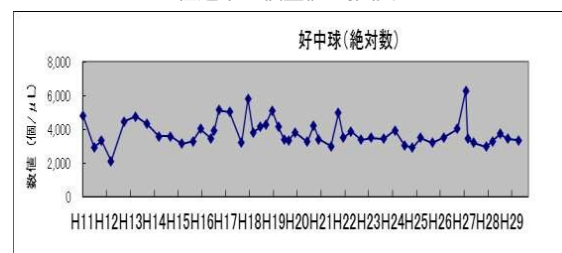
経過中の検査値の推移。



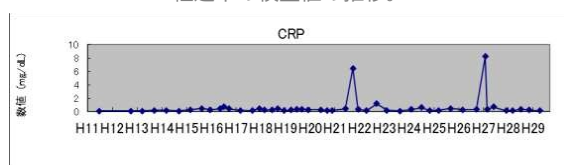
経過中の検査値の推移。



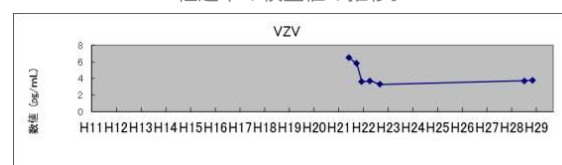
経過中の検査値の推移。



経過中の検査値の推移。



経過中の検査値の推移。



経過中の検査値の推移。

7. 経過のまとめ

検査値には長期的な波がありましたが、治療 10 年以降は強い皮膚症状が減りました。

15 年以上の経過で、日常生活を安定して続けられる状態となりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。